

# Minami Kyushu University Syllabus

シラバス年度	2024年度	開講キャンパス	開講キャンパス	都城キャンパス	都城キャンパス	開設学科	開設学科	子ども教育学科			
科目名称	家庭					授業形態	○	講義			
科目コード	750085	単位数	2単位	配当学年	2	実務経験教員	○	アクティブラーニング	○		○
担当教員名	堂園 敬子							ICT活用	○		○
授業概要	<p>小学校家庭科では、「生活の営みに係る見方・考え方を働かせ、衣食住など?に関する実践的・体験的な活動を通して、生活をよりよくしようと工夫する資質・能力」の育成を目指す。そこで本授業では教材研究や実習、実技を通して小学校家庭科で扱う内容、特に実習内容について理解させる。また、実生活と関連を図った問題解決的な学習を効果的に取り入れる。特に、小学校家庭科で扱う食分野の「ご飯と味噌汁」「ジャーマンポテトづくり」衣分野の「ミシンをつかってのバッグづくり」手縫いの「雑巾づくり」「フェルト小物づくり」などを実際に行うことで、子どもたちがぶつかる困難さや作り上げたときの達成感などを味わうようにさせる。</p>										
関連する科目	<p>家族・家庭生活では「道徳科」、消費者教育の分野では「社会科・公民」、食の分野では「社会科・経済」との関連がある。</p>										
授業の進め方と方法	<p>前半の6回の授業は、家庭科教育の「A 家族・家庭生活」「B 衣食住の生活」「C 消費生活・環境」の学習内容の理解を中心にICTを活用した講義形式で行う。後半の9回は、家庭科の授業において子どもたちが最も楽しみにしている実習の基礎・基本となる内容を実践する。子どもたちは楽しみにしている調理実習や裁縫などを確実に指導する必要があるが、学生の実技技能は未熟であるので、本講義で経験を深めさせる。また、新学習指導要領に新設された「消費者教育」については、契約や消費者トラブル等にも詳しく触れ、グループで考え、ゲームを取り入れた授業を行い興味関心を深める。実技では、日本の伝統である着物の着付け、調理実習、バッグ製作を行う。実技等の際には、材料等の準備が必要となっている。</p>										
授業計画【第1回】	<p>オリエンテーション 授業の進め方の確認、グループ作り</p>										
授業計画【第2回】	<p>家庭科教育の意義～ 家庭科をなぜ学ぶのか。家庭科の歴史を探る。～ 自己紹介をする。育てたい力を学ぶ</p>										
授業計画【第3回】	<p>「A 家族・家庭生活」の指導内容・学習内容についての理解する。 ～多様な家族と家庭生活を学ぶ～</p>										
授業計画【第4回】	<p>「C 消費生活・環境」の指導内容・学習内容についての理解する。 消費者教育：売買契約と消費者トラブルを学ぶ。</p>										
授業計画【第5回】	<p>「C 消費生活・環境」の指導内容・学習内容についての理解する。 消費者教育：「じゃんけんショッピングゲーム、豆腐を選ぼう」をしてみよう。</p>										
授業計画【第6回】	<p>「B 衣食住の生活」衣生活領域の指導内容・学習内容についての理解する。 伝統と文化～浴衣の着付けをしよう～</p>										
授業計画【第7回】	<p>「B 衣食住の生活」住領域の指導内容・学習内容についての理解する ～住むことを考えよう～</p>										
授業計画【第8回】	<p>「B 衣食住の生活」食領域の指導内容 調理実習の基本を学ぶ。 日本型朝食：～ご飯と味噌汁の作り方を調べよう～ 一食分の「元気の出る朝ご飯」の献立をグループで考える。</p>										
授業計画【第9回】	<p>B ご飯と味噌汁の調理実習 ～元気の出る朝ご飯を作ろう。～</p>										
授業計画【第10回】	<p>B 実習反省をする。 一人一実習（ジャーマンポテトづくりの確認）の準備・計画</p>										

授業計画 【第11回】	B ジャーマンポテトを一人一実習でつくる。 実習の反省をしよう。
授業計画 【第12回】	B 並縫いの基本を使って小学生が使いやすい雑巾を作る。
授業計画 【第13回】	B ミシンをつかってトートバックを作る。① 採寸、下準備、ミシンの使い方を調べる。
授業計画 【第14回】	B ミシンをつかってトートバックを作る。② 本縫い、アイロンがけをして仕上げる。
授業計画 【第15回】	B フェルトを使って簡単な小物を作る。 90分のできる小物・・・構想、準備、手順など自分で考える。
授業の到達目標	1 小学校家庭科の特質を踏まえ、教育内容について理解する。 2 家庭科の授業展開に関する実践的な授業技術を身に付ける。 3 家庭科を実際に指導する際の基礎・基本的な知識や技術を習得する。
学位授与の方針 (DP)との関連	1.知識・理解を応用し活用する能力-(2)／2.汎用的技能を応用し活用する能力-(1)／3.人間力、社会性、国際性の涵養-(2)／3.人間力、社会性、国際性の涵養-(4)
授業時間外学習【予習】	技能や技術を高めるために家庭で練習することが望ましい。
授業時間外学習【復習】	授業で得た知識や技能を家庭でぜひ実践し、応用してより新しいことに挑戦する。
課題に対する フィードバック	実習や作品提出については解説する。また、実習では学生と一緒に実技を行う。
評価方法・基準	1 作品提出ートートバック、雑巾、小物ー60点 2 実習・講義への参加（関心、意欲、態度）ー10点 3 定期考査ー30点
テキスト	学習指導要領 家庭科編 東洋出版
参考書	必要なものは、資料として配布
備考	